

練馬区消防団運営委員会事務局
(練馬区危機管理室防災推進課)

令和 7 年度第 1 回練馬区消防団運営委員会議事要録

1 日時

令和 7 年 1 2 月 2 3 日 (火) 1 3 時 3 0 分から 1 5 時 0 0 分まで

2 会場

練馬区役所本庁舎 7 階防災センター

3 委員長および委員の出欠状況

(1) 出席者

前川委員長、おじま委員、小林委員、浅沼委員、上野委員、國分委員
白石委員、井上委員、ももかわ委員、山口委員、浜田委員、吹田委員、
大住委員、佐藤委員、青柳委員、加藤委員、榎本委員

(2) 欠席者

柴崎委員、有海委員

4 議事内容 (要旨)

(1) 開会

【練馬区危機管理室長 (司会進行)】

令和 7 年度第 1 回練馬区消防団運営委員会を開催する。

(2) 委員長挨拶

(委員長の挨拶)

(3) 議事

ア 諮問への検討について

【事務局（石神井消防署警防課長）】

（資料について説明）

練馬区内消防団員を対象に、「災害活動の継続的な強化方策」、「消防団員の負担軽減」及び「企画立案等」についてのアンケート調査を実施するため、アンケート設問と回答の素案を用いて説明。

【練馬区危機管理室長（司会進行）】

以上の説明に対し、ご質問、ご意見等は。

【委員】

消防団員の負担軽減策を設問項目に出した背景を教えてください。消防団員の負担が大きいため、入団の阻害要因などにつながっていると感じてられているのだろうが、改めて詳細に教えてください。

【事務局（石神井消防署警防課長）】

練馬区だけの話ではなく全国的な話になるが、消防団は操法大会の訓練や実災害への対応など、時間・日夜を問わず活動しており、全ての活動について負担が大きいいわれているところである。負担軽減という項目で様々な意見を聞くことが必要と考え設問に入れさせていただいた。

【委員】

負担軽減が課題と捉えているわけだが、消防団操法大会の競技性から実行性へシフトするという回答項目がある。実効性へのシフトのイメージと、そのことで消防団員の方にどう効果があるのか教えてください。

【事務局（石神井消防署警防課長）】

こちらも全国的な話になるが、インターネット等で操法大会は規律面のみが重視され、果たして実災害で必要なのかという話題も出ているところ。規律面もちろん大切だが、実災害対応にあたっての活動力を向上させることに比重を置いた方がいいという意見が出ると推測した。イメージとしては、火災の多様な様相を再現したり、高所等での活動を想定した訓練などを考えている。

【委員】

了解した。負担軽減と実効性が結びつかなかったがイメージは一致している。
また、質問 1 の回答項目に消防庁アプリとあるがどういったものか。練馬区の防災に関心が高い人が地域の防災イベント等を把握できるというものか。

【事務局（石神井消防署警防課長）】

消防庁アプリは一般の方も利用でき、自宅近くでやっている各種防災訓練や応急救護訓練等のイベント等を把握できるものである。

【委員】

アンケートの内容については必要なことは網羅できていると思う。回答率を高めるための工夫をして頂けたらと思う。消防団の活動の実効性を高めることについて何点か質問させて頂く。

まず、可搬ポンプの搬送についてだが、実災害では、手引きの可搬ポンプを搬送すると現場に到着が遅れてしまう。加えて、各種イベントでは地域の人からトラックで会場まで搬送してもらっており、可搬ポンプ積載車は災害時も普段の活動でも有用である。配備状況や今後の予定について聞かせてほしい。

【事務局（石神井消防署警防課長）】

都の特別区の消防団の配備計画は 10 年～15 年程の長期的計画で配備していくと聞いている。現在の特別区の全体の配備状況は不明だが、今後、条件があれば消防団全隊に配備できるよう計画はしているようだ。

【委員】

了解した。ぜひ、増やしていくことで検討して頂けたらと思う。また、分団倉庫についても広さや出場のしやすさで様々な課題があるが、分団の方達が集まりやすく出動しやすい場所を確保するなど、今回のアンケート項目には入っていないようだがすすめてほしい。

実災害の対応力向上に関して、火災を想定した実践的な放水訓練が考えられるが、火災現場では消防隊の補助や避難誘導、安全管理も多い。そのあたりも訓練に取り入れてもいいと思う。従来の枠組みにとらわれない訓練の一例として検討して頂きたい。

【事務局（石神井消防署警防課長）】

了解した。消防団の活動は夜間の照明活動での支援や消防警戒区域の設定、消防署と連携した情報収集など多岐にわたる。訓練といえば放水訓練をイメージするが放水訓練以外も考えていきたい。

【委員】

訓練を評価する場合は難しいと思うが、ぜひ取り入れて頂けたらと思う。また、各団で積みあがってきたノウハウがあると思うので、すぐに変えるわけではなく、これまでの内容を踏襲しながら追加で盛り込んでいくのがいいと思う。

最後に、入団促進が設問としてあるが若い方は学校や職場で忙しく、入団して頂いても訓練に参加できない、高齢で退団するという方もいる。実際に訓練に参加できる団員は限られているので、訓練は原則参加しなければいけないというのはハードルが高い。他の自治体では、限定された仕事に従事して頂く、必要な際に協力してもらって予備消防団員というものがあるが、そういった形で募集してみるのは事務局の所感としてはいかがか。

【事務局（石神井消防署警防課長）】

予備消防団員というのは認識していなかった。事務局で検討してみる。

【委員】

アンケートで最も重要視している質問項目はあるか。

【事務局（石神井消防署警防課長）】

事務局としては全て聞きたい内容である。

【委員】

自分も消防団員として回答したことがあるが、一つ選ぶのが大変だった。回答率をあげるためには、聞きたい質問を前にする、言葉は誰にでもわかるようにする工夫が必要と思う。また、人が足りないのは重要な課題である。活動に支障が出る上に業務に従事する方も固定化されがちである。この課題認識について設問を作った方がいいと思うが、事務局の見解をお聞きしたい。

【事務局（石神井消防署警防課長）】

検討したが、設問を作ると人が足りないと誰もが回答する恐れがあったため、今回は省かせてもらった。

【委員】

人を増やす方法について、意見として申し上げる。例えば、外国人居住者も増えているので、そういった方に入団促進できたらと思う。その際に外国人の方が入団する上で負担なく馴染んでもらえるような方法を考える必要がある。また、操法でいうと2番員は走力が必要で大変で、担える方が限定される。誰もが担えるように、せっかくの器具が使えるようにと、負担軽減の工夫をして、誰もが消防団として寄与できるようにして頂きたい。

【事務局（石神井消防署警防課長）】

誰もが可搬ポンプを使え、誰もがホース延長ができ、指揮もとれるというのが理想である。競技性から実効性にシフトする際は「誰も」が担えるように工夫が必要と考えている。

【委員】

了解した。負担軽減の点でお願いだが、団員歴が長いほど被服が傷んでいる。分団倉庫に掲示するチラシなども傷みやすく分団員が張り替えている。ラミネートするなどをお願いしたい。また、研修の受講もeラーニングを取り入れるなど負担軽減をお願いしたい。

【委員】

意見として申し上げる。若手団員をいかに確保するかが重要である。入ってもらえない理由などをよく分析する必要がある。アンケート形式もいいが若手団員を集めて座談会をするのもいい。

【委員】

質問が3つほどある。まず、質問4について回答項目に従来に捉われない訓練とあるが、仮に若い方から多数の回答があった場合、答申を書くにあたって具体的なイメージはあるか。

【事務局（石神井消防署警防課長）】

回答者に改めて意図を聞く必要があると思っている。

【委員】

次に、質問6は入団促進に関する設問だが、ここ最近の入団きっかけは何だったか教えてほしい。

【事務局（石神井消防署警防課長）】

分団員による入団の誘いが多いと聞いている。

【委員】

最後に、質問7の補給体制の確立の具体的なイメージはあるか

【事務局（石神井消防署警防課長）】

現時点では具体的なイメージはないが、燃料、食料を補給することをイメージして作った。活動面でも燃料等は非常に重要である。どう補給するか of 具体的なイメージはまだ持っていない。

【委員】

了解した。アンケートを見てすぐにイメージがわからない回答項目が多いと感じた。質問自体を具体的な言葉でなげかけてほしい。また、ざくばらんな話を聞いて設けて頂きたい。直接声を聞いた方が答申を作りやすいだろう。

【委員】

質問7の回答項目に防災訓練、啓発広報の拡充があり、予防的な話である。一方、同じ設問の回答項目に補給態勢の確立と各種資機材の強化があり、災害時の話である。単一回答の場合、どれか一つを選択するのは難しいのではないか。

【事務局（石神井消防署警防課長）】

了解した。修正を検討する。

【委員】

質問5の回答項目に可搬ポンプ積載車の資機材配置再評価とあるが、意図を聞かせてほしい。

【事務局（石神井消防署警防課長）】

可搬ポンプ積載車の導入年度によって規格が違ふ。資機材が取り出しづらい位置にあるなどの声を聞く。団員からの意見を聞き、今のものより、より使いやすい可搬ポンプ積載車にしたいという意味合いで書かせていただいた。

【委員】

消防団員の担い手が不足しているという話はよく聞くが、どのような要因があると考えているのか。

【事務局（石神井消防署警防課長）】

確信はないがさまざまな要因が複合的に作用した結果ではないかと考えている。

【委員】

消防のイメージを伝えることが大事で、消防（団）はカッコいいというイメージは一般的である。いかに若い方に伝えるかが重要であり、「カッコいい」イメージを作るところから意識して、発信してほしい。

【委員】

来年度の3月31日までに事務局として答申をするわけであり、短い期間と思うが、どのようにアンケートを回収するのか。

【事務局（石神井消防署警防課長）】

検討中である。LINEなどデジタル技術での回収もあるが、消防団員全員が持っているわけではない。手書きがいいという方もいる。団員の方に負担ない回収方法を検討し、1月中には配布したい。

【委員】

今後のスケジュールを詳しく教えてほしい。

【事務局（危機管理室長）】

来年度の夏頃に第2回の委員会を、冬に最後の第3回を予定し、3月31日までに練馬区としての答申を送る予定である。

【委員】

この諮問では、首都直下地震という災害に向けて強化していくと謳われている中で、災害対応に特化したアンケートにした方がいいのではないかと。負担軽減など様々な分野に広がって主旨がぼやけているようにも感じた。

地域住民や事業者との連携では、消防団とのつながりがわかりづらく、どう連携するのか一言加えて頂くとイメージしやすい。全体的にイメージを伝えてほしい。

最後に質問10の自由記載は多くの人が様々な意見を記載すると思う。対面で話を聞く方がいいが時間が限られている中で難しいとも思われるため、消防団として地震が発災した時に何を一番不安に思っているかをざくばらんに聞いた方が重要な意見を聞けるのではないかと考えた。

イ その他

【委員】

要望のみだが、合同点検などの集合型のイベントに関して、議員紹介をリーフレット記載に変えて省略し簡略化したのはよかった。また、始まる前の集合時間も早すぎて待ち時間が長いという声もある。猛暑で体力が奪われる中で、団員の方に安全に従事してもらうために、今後もスケジュールの簡略化を図ってほしい。

【委員】

消防団は火災や救助、救護活動、給仕活動など多様な業務に従事すると思われる。大災害時に消防団の方はどのような動きをされるのか、また業務も多様なためエキスパートの育成など研修制度など詳細に教えてほしい。

【事務局（石神井消防署警防課長）】

消防団に対する研修体制は東京消防庁で担っており、専門技術の養成課程やポンプ操作の研修、幹部研修なども年間を通じて定期的に受講してもらっている。

（４）代表消防団長挨拶

【石神井消防団長】

消防団代表挨拶

（５）事務連絡

【事務局（石神井消防署）】

事務連絡

（６）閉会

【練馬区危機管理室長】

以上で本日の消防団運営委員会を終了する。